



神の母聖マリア (ルカ 2:16-21)

マリアはイエスと共に成長する

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。守るべき大祝日である御降誕と神の母聖マリアの祭日は、ミサの依頼を發表しませんので、依頼された方のミサは、あらためて次のミサで發表いたします。また、本日の神の母聖マリアのミサの終わりに、新成人を迎えた方の祝福式をおこないます。皆さんで、新成人をお祝いしましょう。

昨年末に茨城県に住んでいる妹が、妹の子を連れて里帰りしていました。半年前と比べてどれくらい成長しているだろうかと実家に様子を見に行きました。半年前は1歳9ヶ月、何かを話しているのですがまったく聞き取れませんでした。

それが、2歳3ヶ月ですっかり変わって、飼い猫を見れば「ねこ」と呼びながら指さしましたし、「こんばんは」のようなあいさつもオウム返しですが返せるようになっていました。「へえ、話せるようになるんだ」と当たり前のことを妹に聞いたら、「最近はやちよち歩きじゃなくて、走り回って困るの」と成長ぶりを聞かせてくれました。

成長していく子供もそうですが、母親となった妹も、子供と一緒に成長しているのだなあと思います。わたしとは10歳離れていますが、結婚し、母となったことが本人を成長させてくれているのだと思います。

さて、世界中どこでも新年のミサは「神の母聖マリア」を祝います。今年、母として成長するマリアの姿に注目してみました。マリアも、大きな使命を託されて、立派に成長していったのでした。当時はとても早く結婚していたでしょうから、マリアがイエスの母となったときは、10代の後半から、20代にかけてのことだったでしょう。すると、一人の人間として、まだまだ成長途上にあっただと思います。

マリアの成長は、マリア一人だけで積み上げていったのでしょうか。わたしは、御子イエスがそばにすることで、マリアは成長し、完全な者となっていったと思います。マリア一人では理解することも受け止めることもできないようなたくさんの出来事がマリアの一生涯には起こりましたが、彼女が「出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」(2・19) この姿勢で何事も受け止めることができたのは、イエスがそばにおられたからなのです。

つまり、マリアはイエスを産み、神の母になるという恵みをいただいたことで、すべての女性の模範、すべての母の模範となるほどに成長し、完成されていったのです。神の母聖マリアはいつもイエスと共に成長していきました。マリアが登場する場面には、つねにイエスの姿があります。

神の母マリアの称号は、もちろんイエスの母マリアにのみ与えられる称号です。ですが、神の母マリアの生涯の歩みは、わたしたち皆にも模範として示されています。マリアが神の母であるのは、神の子を宿し

たった一人の女性であるからですが、同時に、イエスを大切に育て、イエスから離れずに暮らし、イエスのどんな小さなしぐさも見つめながら生きておられたからでもあります。

すると、わたしたちはイエスの母になることはできませんが、イエスの近くにおいてイエスと共に暮らし、イエスの小さなしぐさも見つめながら生きることは可能なのではないのでしょうか。マリアは、イエスと共に歩む中で神の母聖マリアとして成長し、完成されていきました。

同じように、わたしたちが新しい年をイエスと共に歩むなら、マリアのように成長することができます。神の母聖マリアを称えるわたしたちは、神の母聖マリアが成長していった歩みに倣って、わたしたちのさらなる信仰面の成長を願うことができます。

今年一年、わたしたちがより良い年であることを願うなら、それは神と共にある生活を願うのがいちばんの近道です。どのようにして神が共にいてくださる生活を積み重ねていけるか、それぞれ考えましょう。今日こうして礼拝に集まったように、ふだんから教会に足を運ぶことも神と共にある生活を維持する力になります。

礼拝に集い、祝福を受け、派遣の言葉に送られながら、今年一年、また成長していきましょう。神の母聖マリアの取り次ぎを願いながら、イエスと共に生きる決意を確かめ合うことにしましょう。

主の公現(マタイ 2:1-12)